

一 次の——のカタカナを漢字に改めなさい。

- ① 毎日練習してキ^キホ^ンを固める。
- ② 朝は公園でダイソウ^{ダイソウ}をする。
- ③ 手紙をユウビン^{ユウビン}ポストに入れる。
- ④ シヤソウ^{シヤソウ}からの風景を楽しむ。
- ⑤ ネコがチュウ^{チュウ}返りをする。
- ⑥ 待ち合わせのジコク^{ジコク}におくれる。

二 次の——のカタカナを文脈に則して漢字に改めなさい。

- ⑦ 考え直すヨチ^{ヨチ}がある。
- ⑧ 自然災害はヨチ^{ヨチ}しがたい。
- ⑨ 買った魚がイタ^{イタ}む。
- ⑩ かぜのため頭がイタ^{イタ}む。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

奉公^{ほうこう}をしているおみつのところへ、田舎^{いなか}の母親から小包がまいりました。あけてみると、着物^{けもの}がはいっていました。そして、母親からの手紙には、

a おまえも大きくなったであろう。そのつもりでぬったが、からだによくあうかどうかわかりません。とどいたら、着てみてください。もしあわないようでしたら、夜分でもひまのときに、なおして着てください。」と、書いてありました。

おみつは自分のへやにはいつて、お母さんからおくってきた着物をきてみました。B 田舎にいるときには、お正月になつてもこんな着物をきたことがなかったと思いました。自分だけでなく、村でもこんな美しい着物をきる娘^{むすめ}は、なかったのであります。

彼女は、しばらく自分のすがたに見とれていました。ちようどそこへ、坊ちゃん^{ぼくちゃん}が外からたこをとりにはいつてきて、おみつのよすを見たので、

c 「みつ、それを着ると、なんだか田舎^{いなか}の子みたいになるよ。」といって、笑いました。

おみつも、田舎では美しいのであろうけれど、都ではみんながもつと美しい着物を着ているから、あるいはそう見えるかもしれないと思うと、急にはずかしくなつて、

d 「なぜ、お母さんはもつとはでなのをおくつてくださらなかったのだろう？
のをこちらでこしらえればよかったのに……。」と、心でいいながら、^①着物をぬいで、行李^{はこ}の中へしまつてしまいました。

晩になつて、おしごとがおわりました。彼女は自分のへやへはいつてひとりになると、しみじみとして田舎^{いなか}のことが考えられました。行李から着物をとりだしました。村からあの峠^{とうげ}をこして母親が町へ出て、^②機屋^{はたや}でこの反物^{はたもの}を買い、家^{うち}にかえつてからせつせとぬつて、おくつてくださったのです。そう考えると、また、いくたびかこのぬいかけた着物を手にとりあげて、

「娘にあうかしら？」と、首をかしげて見入られたであろう母親のすがたさえ、目にうかんでくるのでした。

おみつは、お母さんの手紙を着物の上でひらいて、もういちどよみかえしているうちに、^③あついなみだが、おのずと目の中からわ

いてくるのをおぼえました。

「せっかく、おくってくださったのを、気に入らないなどいって、 があたりわ。」

そう思うと、彼女は心からありがたく感じて、すぐにお札の手紙を書いて、お母さんに出したのです。ある日、おみつはお嬢さんのおともをして、デパートへいったのであります。

「そんなじみな着物しかないの？」と、出がけにお嬢さんがおっしゃいました。

おみつは、X顔を赤くしましたが、心の中で、お母さんのおくってくださったのを、cじみでもなんのはずかしいことがあろうかと、自分をあげまわしていました。

ひろびろとしたデパートは、いろいろの品物でかざりたてられていました。そして、③そこはいつも春でありました。香水のにおいがただよい、南洋できのらの花がさき、美しいふうをした男や女がぞろぞろ歩いて、dこの世の中の苦勞を知らぬ人たちの集まりのようでありました。

「みつや、人がみんな、おまえのふうを見ていくじゃないの。そんな田舎ふうをしているからなのよ、みつともないわ。」と、お嬢さんがいいました。

これをきくと、おみつはまだ若い娘だけに、
「いくらお母さんがおくってくださったのでも、ほかの着物を着てくればよかった。」と、思いました。

お嬢さんは買い物をして、その包みをおみつに持たせて、それから食堂にはいつておみつもいっしょにご飯をたべ、コーヒーをのんで、休みました。そして、そこを出ました。

「みつや、東北地方の物産の展覧会があるのよ。きっとおまえの国からも、なにか名物が出ているでしょう。ちよつと見ましようね。」と、いつて、お嬢さんは先になってその会場へおはいりになりました。

おみつも、その後からついてはいりました。

そこには、田舎でつくられたおり物とか、道具とか、おもちゃのようなものがならべられてありました。デパートの他の売り場で

は見る事ができないような、けばけばしくはないが、じみで美しい、おもしろみのある品物がありました。一つ一つ見て歩いていらしたお嬢さんは、ふいに足をとめて、

「ちよつと、ここにならんでいる反物は、おまえの国の町からなのよ。まあ、みつや、この反物は、おまえの着ているのと同じでないこと！」と、お嬢さんはおっしゃいました。

おみつもそれを見ると、しまがらがすこしちがつているだけで、まったく自分のと同じ手おり物でありました。つけてあるねだんを見て、お嬢さんは④二度びっくりして、

「まあ、高いのね！」と、大きな声でおっしゃったので、そばにいる人たちまでが陳列された反物とおみつの着物とを見くらべて、この女中さんはなかなかいい着物を着ているのだなといわんばかりの顔つきをしたのであります。

おみつはそれを知ると、はじめて自分がいい着物をきているのを知ってうれしかったというよりか、⑤自分の故郷ではこんないい反物ができるということに、誇りを感じたのでした。やがて、会場からでるとお嬢さんは、

「ごめんなさい。みつの着ているのが、そんなにいい品だとは知らなかったの、悪口をいってすまなかったわ。」と、いつて、おわびをなさいました。

おみつはまた、Y顔を赤くしました。しかし心のうちでは、喜んでいたのであります。そして、お母さんをほんとうにありがたくなつかしく感じました。

* 原文を一部改めました。

(小川未明『定本小川未明童話全集 10』講談社 「いなかのお母さん」)

注1 行李…衣類をしまっておく、ふたの付いた箱。

注2 機屋…布を織ることを職業とする家。

注3 反物…和服用の布。

注4 陳列…人に見せるために品物をならべること。

問1 a s dにあてはまる言葉として最もふさわしいものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上使ってはけません。

- ア つぎつぎ イ まるで ウ さぞ エ かならず オ わざわざ
カ たとえ キ いつも ク しばらく

問2 ①とありますが、この時のおみつの気持ちとしてあてはまるものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 一方的に着物をおくつて来て自分にはじをかかせた母に対し、腹立たしく思っている。
イ 母が自分におくつて来た着物を、ばかにして笑った坊ちゃんに怒りをおぼえている。
ウ 美しい着物を着ても結局田舎の子にしか見えない自分にいらだっている。
エ 母からも坊ちゃんからも理解されないと思い、孤独な気分を感じている。
オ 成長して自分に似合う日が来るまで、この着物を大切にしまっておこうと考えている。
カ 母からおくられた着物の美しさに舞い上がっていた自分に、はすかしさを感じている。

問3 ②の理由を説明したものとして最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 長く会っていない娘の姿を思いうかべながら、娘におくる着物を用意する田舎の母親の様子を想像し、おみつは母親を恋しくもありがたくも思つて、なみだをうかべている。
イ 田舎の母親は手紙の中で、着物を着てみて大きさが合わなければ自分で直すようおみつを突き放しており、おみつは怒りとさびしさを感じて、なみだをうかべている。
ウ 田舎の母親からおくられた着物には母の愛情がこめられており、気に入らなくても感謝しなければいけないと分かっている。
エ 田舎の母親が、おみつが大きくなったお祝いとして美しい着物をおくつてくれたことをおみつはうれしくもありがたくも思ひ、なみだをうかべている。
オ おみつに似合うかどうか、田舎の母親も首をかしげるような着物をおくつてきたのではと、おみつは母の愛情を疑ってさみしい気持ちになり、なみだをうかべている。

問4 にあてはまる言葉を平仮名二字で答えなさい。

問5 X・Yについて、おみつはなぜ「顔を赤くし」たのですか。それぞれ四十字以内で説明しなさい。

問6 ③に用いられている技法を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 擬人法 イ 直喩法 ウ 隠喩法 エ 倒置法 オ 反復法

問7 ④について、お嬢さんがびっくりした内容を八十字以内で説明しなさい。

問8 — ⑤と異なる意味で使われているものを、A～Eの中からすべて選び、記号で答えなさい。

問9 この文章の登場人物「お嬢さん」はどのような人物として描かれていますか。その説明として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 相手の気持ちを考えない無神経な性格で、目下の者に対してはひどいことを言ってもかまわないと思っている意地悪な人物。
イ お嬢さんと呼ばれるような身分はお金持ちでえらいのだと得意がり、すべてのものの価値を値段で判断する人物。
ウ 負けず嫌いな性格で、自分の言ったことが間違っていたときには言い訳をしまかそうとする人物。
エ 思ったとおりのことを口にするが、自分の間違いに気付けばこたわらずに認める素直な人物。
オ 美しいものに興味を示す好奇心旺盛な性格で、だれにでも優しい思いやりのある人物。

四 次のⅠ・Ⅱ・Ⅲの文章を読んで、後の問いに答えなさい。

I

日本の川の魚群集を調べてみると、多くの川にアユが生息しています。しかも、その多くは、琵琶湖産のアユです。湖に棲んでいるアユはワカサギと同様にミジンコを好んで食べますが、川にいるアユは、石の上に繁殖する附着藻類を主な餌としています。そうすると、川に放流されたアユも、川の生態系を攪乱しているといえるでしょう。

すると、日本全国の多くの川や湖の魚群集は、主に漁業関係者によって人為的に変えられ、それに伴って生態系も変えられてきたといえます。そう考えると、漁業関係者の行為は、ブラックバスを放流した人の行為と同じといえます。A、両者の間には大きな違いがあります。それは、ブラックバスの放流は秘密裏に行われたのに対し、ワカサギやアユは漁業権を得た漁業者によって、公然と放流されてきたという事です。すなわち、多くの人がそれを認めてきたのです。

ここで私は考えました。生態系を攪乱するという事では、ワカサギやアユはブラックバスと同じなのに、なぜ、ワカサギやアユの放流は、ブラックバスの放流と異なり、問題にされないのでしょうか。恐らくそれは、ワカサギとアユの食性がブラックバスと異なっているからでしょう。

生物多様性に関心を持たれるようになった今、陸上の生物群集はもとより、湖や川に棲む生物群集の多様性の話もよく耳にするようになりました。そして、そのとき話題に上る生物のほとんどは、メダカ、カダヤシ、ブルーギル、ブラックバスなどの魚です。まるで、多くの人たちは、水域に棲む動物は魚だけと考えているようにすら思えてきます。B、その人たちは、魚にしか関心がないのでしょうか。特にブラックバスが水域に入ってくると、「生態系が壊れる」という声が大きくなるのは、ブラックバスが魚を餌とするからではないでしょうか。言い換えれば、多くの人たちが、ワカサギやアユが餌とするミジンコや水生昆虫、附着藻類などを軽視していることを示しているように思われます。すると、その人たちは、生物種を差別しているといえるでしょう。

II

ところで、今の日本人は、ブラックバスよりもワカサギをひいきしていますが、ワカサギがブラックバスのように害魚扱いされたことがあります。例えば、一九一四〜一九一五年に諏訪湖にワカサギが導入されてから、しばらくたった一九三二年、魚類学者の田中茂穂氏が、「諏訪湖のワカサギが、それまで漁業で重要な生物であった小エビをほとんど絶滅させた」と東京日々新聞に書いています（『ブラックバス移殖史』つり人ノベルズ）。ところが、その後、ワカサギが

Y

と、一転して、ワカサギが、大切な魚に変わったのです。ある湖では同様のことがブラックバスに対して生じました。

その湖にブラックバスが侵入した当初は、「ワカサギが食べられてしまう」として密放流を非難した漁業関係者が、その湖に訪れるバスの釣り人が増えて、遊漁料収入が増えるという態度を変え、ブラックバスを漁業権魚種にし、その後は漁業者自身が積極的にバスを放流したのです。

C、昔から日本の河川には、海で育ったアユの稚魚（いわゆる天然アユ）が多く遡上してきて、漁業者や釣り人を喜ばせてきました。それが一九八〇〜一九九〇年頃になると遡上するアユの数が大きく減少し、琵琶湖産のアユが大量に放流されるようになりました。天然アユの減少は河川改修工事や水質の悪化といわれています。

ところが、近頃は状況が変わり、天然アユの遡上が増えてきているようです。それには、川の物理的環境（護岸形態、魚道の有無など）や化学的環境（水質）が、アユが棲みやすいものになったことが影響しているのかもしれませんが。川によっては大量に天然アユが上るようになり、その数が一〇〇万匹にも達したところがあるようです。④そのため、他の多くの川でも、一〇〇万匹の天然アユを呼び戻す⑤ことを目標として、さまざまな取り組みが行われるようになってきているようです。私はこれに対して違和感を覚えました。

III

まず、川といっても、それぞれが大きく異なります。流程が長い川、短い川。水量の多い川、少ない川。水温の高い川、低い川。生物生産量の高い川（水中の窒素やリンの濃度が高く、アユの餌になる付着藻類が多い川）、その生産量が低い川。これらの条件が異なると、その川で生息できるアユの数は大きく異なるはずで、アユが多くは棲めない川に、一〇〇万匹を目指して海から上がってくるアユを誘い込むことをしたら、多くのアユが川の中で死ぬことになるでしょう。そうすると、死んだアユの腐敗によってその川が汚濁するかもしれません。また、多すぎるアユによって、川の中の付着藻類が大量に食べられてしまうと、アユと同様に付着藻類を主要な餌とする水生昆虫に、大きな影響が及ぶに違いありません。すると、それは大きな生態系攪乱ということができるでしょう。

川に上ったアユは、その生態系のメンバーとして暮らすことになります。すると、生態系を構成する全ての生物と直接または間接的に関わりを持つことになります。そのため、ある河川生態系の中のアユの個体数が大きく変化したなら（人間が川に棲むアユの個体数を大きく変化させたら）、それは間違いなくその生態系に影響を与えるのです。しかも、その影響が及ぶ範囲は川の中だけではありません。川に棲んでいる水生昆虫の多くは幼虫で、成虫になると羽を持って川から飛び出します。すると、その成虫は、河畔林等で暮らしている鳥の格好の餌となるのです。次に水生昆虫を食べた鳥が、林の中で糞をすると、その糞は土壌中の微生物によって分解され、樹木の栄養になります。すると、川の生態系の一員である水生昆虫の体をつくっていた物質は、それにより陸上生態系に組み込まれて行くのです。したがって、川の生物を人為的に増やす、あるいは減らすことの影響は、陸上の生態系にも複雑な影響を与える可能性があるのです。

多くの川で「アユ一〇〇万匹を呼び戻そう」というかけ声をあげている人たちの多くは、生態系を考慮せず、アユのことしか考えていない人たちではないでしょうか。

⑤このように、魚と人の関係を見てみると、人々がかなり主観的に生物種や生態系を見ていることがわかってきます。

ただし、ここで断っておきますが、私はワカサギやアユが湖や川の生態系を大きく変えるからといって、それらの魚の放流はする

べきではないと主張するつもりはありません。なぜなら、その湖や川を利用して多くの人々が、それらの魚の放流を容認しているからです。ただし、その容認は、人々がワカサギやアユの生態系への影響を知らなかったために与えられたのかもしれませんが。もしそうであるなら、みんなが同意して、よいこととして行ったワカサギやアユの放流が、思わぬ環境問題を起こす可能性があります。そのことに注意が必要でしょう。

漁業者は、魚の繁殖時期や水域内での魚の分布など、魚の生態をよく知っている人々です。しかし、彼らの関心は、いかに魚を多く増やして獲るかということに注がれていて、魚の放流が、その水域の環境や生態系にどんな影響を与えるのかを考えていないことが多いように思われます。

* 原文を一部改めました。

注1 繁茂：草が生い茂ること。

注2 藻類：水中に生える藻のこと。

注3 攪乱：かき乱すこと。

注4 遡上：川の流れを上流へさかのぼっていくこと。

(花里孝幸『生態系は誰のため?』筑摩書房)

問1 ☐ A→Cに入る言葉として最もふさわしいものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア だから イ また ウ しかしながら エ たとえば オ それでは
カ すなわち キ こうして

問2 ①とはどんなことですか。二十字以内で答えなさい。

問3 ②とありますが、ワカサギとアユの食性と、ブラックバスの食性は、具体的にどのような点で異なっていますか。六十字以内で答えなさい。

問4 ③「多くの人たちが」は、次のア→カのどの部分にかかっていますか。記号で答えなさい。

多くの人たちが、
ワカサギやアユが／餌とする／ミジンコや水生昆虫、
付着藻類などを
軽視していることを／示しているように／思われます。

問5 ☐ X には次の四つの文が入ります。正しい順番に並べかえて記号で答えなさい。

- a なぜなら、彼らが軽視している生物が、食物連鎖を介して、彼らが重視している魚の命を支えているからです。
b そのように、水域の生態系で、極めて重要な役割を果たしている生物を軽視しているということは、多くの人が生態系を理解していないことの現れではないでしょうか。
c また、それらの生物は水質にも大きな影響を与えているのです。
d これはおかしいことです。

問 6 Y に入る言葉として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 諏訪湖での漁業活動の中で大きな収入源になる
 イ 諏訪湖の小エビを絶滅させたわけではないと証明される
 ウ 諏訪湖の生物多様性を維持するために必要だと叫ばれる
 エ 諏訪湖に棲む魚の命を支える重要な存在とわかる
 オ 諏訪湖を守る主であるという新たな俗説がでる

問 7 — ④とありますが、筆者はどのような「違和感」を覚えたのですか。次の中からふさわしくないものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア アユのことだけを考えて、取り組みを行っているのではないかということ。
 イ 水生昆虫が成虫になると、鳥の格好の餌になるのではないかということ。
 ウ 川の受容力を超えてアユが死に、川が汚れるのではないかということ。
 エ 河川生態系の変化は、陸上生物にも影響を与えるのではないかということ。
 オ 他の生物の餌が、アユに食べられて減るのではないかということ。

問 8 — ⑤とありますが、ワカサギやアユの放流について、筆者が最も主張したいことを、「生態系」「影響」という言葉を使って六十字以内で説明しなさい。

問 9 I・II・IIIにはそれぞれ小見出しがきます。その組み合わせとして最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

	I	II	III
ア	絶対にアユを放流してはいけない	嫌われ者のブラックバス	川を破壊する一〇〇万匹のアユ
イ	ブラックバスを放流しよう	天然アユが戻ってきた	川を破壊する一〇〇万匹のアユ
ウ	アユの放流は許されるのに	嫌われ者のブラックバス	生態系のメンバーとしてのアユ
エ	ブラックバスを放流しよう	かつてワカサギも害魚だった	生態系のメンバーとしてのアユ
オ	アユの放流は許されるのに	かつてワカサギも害魚だった	「アユ一〇〇万匹を呼び戻そう」を疑う
カ	絶対にアユを放流してはいけない	天然アユが戻ってきた	「アユ一〇〇万匹を呼び戻そう」を疑う

